

# 牛久市 農業委員会だより

2020年（令和2年）  
第35号

発行所 牛久市農業委員会  
住 所 牛久市中央3-15-1  
電 話 029-873-2111(代)  
再生紙を使用しています



美味しくて立派なブロッコリーが収穫出来ました  
～ブロッコリー部会 目揃い会～

## \*\*\*\*\* 主な内容 \*\*\*\*\*

農業委員会会長挨拶.....	2
農家訪問	
農業委員視察研修.....	3
女性農業委員だより	
農地の集積・集約化推進大会	
お知らせ.....	4



青空に映える美しい菊の花

# 新年のご挨拶



牛久市農業委員会  
会長 山越 康義

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、ご健勝にて新年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

日ごろより、牛久市農業委員会の業務運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は台風15、19号と度重なる大型台風の上陸や、大雨などによる大規模な災害に立て続けに見舞われ、農地や農業用施設などに多くの被害が発生いたしました。被害に遭われた方々にはお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本市においては、改正農業委員会法による新体制に移行後の現委員の任期が令和2年7月19日までとなっており、改選を迎えます。引き続き、積極的に女性や青年の農業委員の登用を呼びかけ、女性や若者ならではの視点や感性を生かした活動を期待しているところでございます。そして、担い手への農地利用集積の促進、遊休農地の発生防止・解消について着実な成果を積み上げ、地域農業の持続的発展のため、農家の皆さまと関係諸機関のご指導とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとって輝かしい年となりますようお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

# 農家訪問

## 農業にはまりました

東京生まれの東京育ち、大学卒業後にご両親と牛久に移住され、農業とは無関係のサラリーマンだったという宮下祐生さん。退職後、次の仕事のつなぎに：とお勤めされたグットファーム（阿見）・うしくグリーンファームで農業に携わろうちに、「すっかり農業にはまってしまった」宮下さん。昨年7月に新規就農し、山岡社長に作り方を教わった河童大根、需要に対してまだまだ供給が追いついていないと見越したブロッコリーなどを、



久野町に借り受けた2ha近くの畑でおひとりで栽培しています。グリーンファームの先輩で、昨年の農業委員会だよりにも登場いただいた佐藤尚徳さんのお住まいの近くに家を借り、先輩・JAの大根部会やブロッコリー部会など、地域の皆さんの存在を励みに農業を営んでいます。

「今は目の前のことでもいいいっばいだけで、農業は自分のやりたいようにやれるし、全部自分で決めることが出来るのが魅力的。機械や設備などが整っていないので、お金の回りは厳しい部分もある。なので規模拡大よりは、今の生活を安定させることに全力を注ぎたい。」と語ってくれた控えめで謙虚な印象の宮下さんですが、将来をしっかりと見据え、今後グラジオラスの栽培を始めるべく土浦で研修を受け、規模拡大を目指して奮闘されています。

最後に、宮下さんのお名前の由来は、明治天皇の幼少時の称号「祐宮すけのみや」とのこと。宮下さんもきつと、牛久の農業に大きな改革をもたらしてくれることでしょう。益々の活躍を期待しています。



## 農業者年金に加入しましょう

積立方式の確定拠出型年金で、生涯受給できます。掛金は月額2~6.7万円の範囲で自由に選べ、全額所得控除できるので節税にもなります。

## 三つの要件を満たせば加入できます

1. 60歳未満
2. 国民年金第1号被保険者（保険料免除者は除く）
3. 年間60日以上農業に従事

国が支える。安心が大きくなる

**担い手積立年金**

「担い手積立年金」は農業者年金の愛称です。

※加入の申し込み、お問い合わせは最寄りのJAまたは農業委員へ



# 農業委員視察研修

令和元年10月29日

「アッ！孫だ」バスが到着するやいなや立ち上がって発した先をみると、冷たい雨がそぼふる中でにこやかに佇む青年の出迎えを受けた。農業委員の中山みつゐさんが手塩にかけた自慢の孫、真一郎さんである。

新時代の幕開けの研修は、山梨県北杜市で栄養系野菜の生産販売を手がける三好アグリテック(株)を訪ねた。各地に甚大な被害をもたらした台風による影響を見やりながら圏央道から中央道を西下。高速道から見る限り台風19号に追い打ちをかけた記録的大雨の爪痕は、河川の堤防上端部に残るゴミなどで越水寸前だったことがうかがえた。

標高約800mの盆地にある生産施設は、台風の影響も少なくイチゴ(21品種)、サツマイモ(15品種)、ワサビ(8品種)を育苗しているとのことだった。イチゴ栽培は最も反取のあがる作物ということだが、作付面積は栃木県が586haと最も多く、茨城県は244haで7位。とおとめ、あまおう(福岡県)、さがほのか(熊本県)、べにほっぺ(静岡県)のブランド力順に生産量が多い。県が他に負けじと売り出し中のオリジナル品種「いばらキッス・ひたち姫」の知名度はまだまだ。サ



ツマイモは鹿児島県について2位の生産量。苗生産にあたっては、病気を「持ち込まない」ことが最大の防除対策

ということである。現在の出荷苗は来年の9月中旬定植、11月中旬から収穫する苗の親株に。農家はこの親株から子株を採って、それを定植。定植するときには資材や土壌消毒をしつかりと。昔から苗半作というけれどそのための育苗期の防除対策は重要なんですね。目をほそめながら孫の説明に聴き入るバアバはどこか誇らしげだった。そしてここで学んだ知識と経験を活かして、牛久で唯一のイチゴ栽培農家にと願っているに違いない。

# 女性農業委員だより

去る8月29日、茨城県に於いていばらき農業委員会女性協議会総会が開催され、県内の女性農業委員、農地利用最適化推進委員52名中33名が出席しました。2019年度の事業計画をはじめ、同会の活動内容について会員の承認を得ました。

女性登用の促進については、引き続き、女性が一人もいない農業委員会を解消すること、さらに複数の女性を登用することについて、取り組みを強化することとしました。

総会後の記念講演では、全農茨城県本部生活総合リテール部の小泉孝光氏に、ポケットファームどきどき茨城町店の概要をご講演いただきました。「森の家庭料理レストラン」や直売所が活気あふれるまでの道のりやこだわりを中心にお話いただきました。今後、2月には県内研修が予定されています。

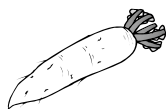
# 「農地の集積・集約化推進大会」に参加しました

爽やかな秋晴れの下、11月15日に小美玉市小川文化センターで開催された標記大会に、農業委員、農地利用最適化推進委員9名で参加しました。集まったのは県下の農業委員会、農協、担い手団体など総勢900名。大井川知事の挨拶に始まり、農林水産省の基調講演、笠間市農政課による農地集積・集約化の取組についての事例発表があり、牛久市でも昨年に農地の全筆調査およびアンケート集計を終

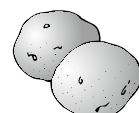
え、1月より人・農地プランの実質化に向けて農業委員・推進委員、耕作者(担い手)、行政機関を交え、効率的な農地利用の調整に向けた地域の話し合いを行ってまいります。みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和元年度 農地の集積・集約化推進大会  
～農地中間管理事業の更なる活用に向けて～



# お知らせ



## 賃借料情報

区分 (10a当り)	賃借料標準額
田	10,000~20,000円
畑	3,000~8,000円

## 農作業標準料金

### 請負作業標準料金

項目 作業名	単位	料金	備考
深耕	10a	10,000円	
プラウ耕	10a	6,000円	
デスク耕	10a	3,500円	パワーデスク
普通ロータリー	10a	5,000円	畑
耕起	10a	5,000円	田
代かき	10a	6,000円	
畦塗り	1m当たり	35円	
育苗	1箱	700円	硬化苗
田植え	10a	6,500円	条件により料 金割増
育苗~田植え	10a	18,000~ 20,000円	
刈取り~脱穀	10a	16,000~ 20,000円	倒伏などの条件 により上限とする
刈取り~調整	10a	30,000~ 35,000円	倒伏などの条件 により上限とする (袋詰 めまで)
乾燥~調整	玄米60Kg 当たり	1,800円	(袋詰めまで)
初すり	玄米60Kg 当たり	1,000円	(袋詰めまで)
麦刈り~調整	10a	22,000円	倒伏などの条件 により上限とする (袋詰 めまで)
甘藷マルチ張り	10a	10,000円	薬剤散布含む
甘藷マルチ張り	10a	5,000円	薬剤散布なし
落花生マルチ張り	10a	4,000円	
肥料と土壌改良 剤の散布	10a	2,500円	資材の運搬は 含まない 片方の場合 は1,500円

## 農業委員と農地利用最適化推進委員の候補者を募集します

牛久市農業委員会は、「農業委員」と「農地利用最適化推進委員」について、応募または推薦により委員の候補者を募ります。任期は、令和2年7月20日からの3年間で、農業委員の選出方法は市長の選任制、農地利用最適化推進委員は農業委員会からの委嘱となります。



募集については詳細が決定次第、広報うしくや市ホームページでお知らせします。

## 農業者の視点でお届けします 全国農業新聞

農家の思いを伝え、農業・農村の未来をとらえる「全国農業新聞」は、地域農業者の代表機関である農業委員会のネットワークが発行する週刊の農業総合専門誌です。

購読の相談は農業委員へ。  
発行日/毎週金曜日  
購読料/月700円(送料・税込)



## 許可が必要! 農地の転用

農地の転用とは、農地を農業以外の用途に利用することです。

農地に区画形質の変更を加えて宅地、道路、山林などの用途に転換することや、一時的に工事や資材を置いたりする場合も転用となります。

許可申請は、農業委員会事務局へ。

## 未来につなぐ『相続登記』

農地を相続したら、相続登記と農業委員会への届出をお願いします。

登記の手続きは法務局へ、農地の相続の届出は農業委員会事務局へお問い合わせください。

## 編集後記

秋には立て続けに台風、豪雨そして川の氾濫、他県では半日に一か月分の雨が降りました。ニュースでは、「命を守る行動を」と報道され気持ちが揺れました。牛久市に於いても、ハウスの破損、丹精込めて栽培した作物の被害も大きかったと思います。今後も異常気象がある可能性大とのこと、気を引き締めて頑張りましょう。

時代も平成から令和に変わりました。令和の時代が温かみのある平和な時代となり、長く続くことを願いつつ編集に当たりました。編集にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

編集委員 中山みづい  
石島ますみ